

明治学院大学キリスト教研究所 紀要

号数	発行日	タイトル	執筆者	備考
1	1967	序	若林龍夫	出版分在庫なし
	1967	創刊の辞	村田四郎	
	1967	一つの提言	武藤富男	
	1967	初代教会における三位一体論(1)	園部不二夫	
	1967	イエスの論争集(マルコによる福音書2.1-3.6)	秋元徹	
	1967	イエスからキリスト・ケリュグマへ—イエスの謎りの問題と関連して—	村上和男	
	1967	日本近代化の課程におけるキリスト教学校教育の問題—文部省訓令第12号をめぐって—	工藤英一	
	1967	ポエティウスの中世的意義	小野忠信	
	1967	国民契約の成立(その1)	飯島啓二	
	1967	ジョン・リルバーンの権利意識	渡谷浩	
2	1968.06.30	イエスの奇跡物語集—マルコによる福音書四・三五・五・四三—	秋元徹	
	1968.06.30	近代における予言論の推移とその問題	高森昭	
	1968.06.30	ドイツ福音主義教会連合の成立並びにその一九二二年度の憲法	和田昌衛	
	1968.06.30	平等派思想における合理主義—ウィリアム・ウォールウィンの場合—	渡谷浩	
3	1970	モルトマン「希望の神学」における黙示文学の解釈をめぐって	高森昭	出版分在庫なし
	1970	聖語にあらわれた福音書記者の編集的構成	陶山義雄	
	1970	エレミアの預言の言葉の形態に関する一考察	小田島太郎	
	1970	政治的イデオロギーとしてのピューリタニズム—思想的試論—	渡谷浩	
	1970	解説 カール・バルトのアンセルムス解釈—Fides quaerens intellectum—に拠って—	小野忠信	
	1970	翻訳 スコットランドにおける契約の観念 C.G.ヘンダソン著	飯島啓二	
	1970	資料紹介 日本宗教懇話会編「御大典記念日本宗教大会紀要」	久世了	
	1970	特別資料 明治32・33年井深権之助日記・抜粋	工藤英一	
4	1971	聖アンセルムスの三論(その1)	小野忠信	出版分在庫なし
	1971	使徒会議について	伊佐正敏	
	1971	聖語にあらわれた福音書記者の編集的構成2	陶山義雄	第3号の続き
	1971	ピューリタニズムにおける良心の自由—リチャードソンを中心に—	渡谷浩	
	1971	研究ノート キリスト者のマルクス主義理解のために	久世了	
	1971	翻訳 宗教改革前後のスコットランド教会 G.ドナルドソン著	飯島啓二	
	1971	CALVINISM and the COVENANTS in PURITAN NEW ENGLAND	Gordon J. Van Wyk	
	1971	書評 U.オルデンブルグ著「カナン宗におけるエルとバルの抗争(仮訳)」(1969年E.J.プリル社刊、217頁)	定形日佐雄	
5	1972	カール・バルトのアンセルムス解釈の意義	小野忠信	出版分在庫なし
	1972	聖語にあらわれた福音書記者の編集的構成3	陶山義雄	第4号の続き
	1972	若き内村鑑三の思想的背景	渡谷浩	
	1972	ドストエフスキと人間の救い(序)	吉沢慶一	
	1972	護教論者(Christian apologist)としてのG.S.ルイス	須藤信雄	
6	1973	聖アンセルムスの論証展開でみられる信仰と理性との関係	小野忠信	出版分在庫なし
	1973	聖語にあらわれた福音書記者の編集的構成3	陶山義雄	第5号の続き(同一)
	1973	ドストエフスキにおける愛と救い(1)	吉沢慶一	
	1973	解説 ユダヤ人のメシア思想	興裕正敏	
	1973	翻訳 カルヴァン主義(キリスト教会および諸分派の社会論)第3章 プロテスタンティズム第3節の全訳(1) E.トルレチ著	小林泰雄	
	1973	SCIENCE HARMONIZES WITH RELIGION	Takeo Hama	
7	1974.05.25	旧約外典第一エズラ書における歴代志史家(1)	吉田泰	
	1974.05.25	「E Φ Ο Β Ο Υ Ν Τ Ο Γ Α Ρ Α Π」マルコ福音書の結語について	陶山義雄	正確な綴り不明
	1974.05.25	パウロのキリスト観—彼の律法観に関する一歴史的考察—	伊佐正敏	
	1974.05.25	ジョン・ノックスの生年	飯島啓二	
	1974.05.25	宗教改革者と人文主義者との意識の相違をめぐる覚え書	真崎隆治	
	1974.05.25	翻訳 カルヴァン主義(2)—8「キリスト教会および諸分派の社会論」第三章プロテスタンティズム 第三節カルヴァン主義—	E・トルレチ/小林泰雄	
	1974.05.25	「神」殺し(God-killer)の詩人 W・ブレイク	須藤信雄	
	1974.05.25	聖書の翻訳と解釈—読みやすい翻訳のための一つの視点—	成瀬武史	
8	1975.05.25	献呈のことば	秋元徹	園部不二夫教授停年
	1975.05.25	記念号に寄せて	金井信一郎	
	1975.05.25	キリスト教本質論に関する一考察	村上和男	
	1975.05.25	聖アンセルムスにおける神と人間との関係について	小野忠信	
	1975.05.25	三人の侍童物語	吉田泰	
	1975.05.25	パウロにおける神学的概念としての律法—ガラテヤ書第十・十三節の歴史的・釈義的考察—	伊佐正敏	
	1975.05.25	良心の自由と集会の自由—ピューリタニズムにおけるその内的連関—	渡谷浩	
	1975.05.25	キリストと反キリスト—ドストエフスキの大審問官をめぐって—	吉沢慶一	
	1975.05.25	フーバーにおける「出会い」の意味—「我と汝」を中心としての一考察—	千葉茂美	
	1975.05.25	キリスト教研究への省察	秋元徹	
	1975.05.25	『ヨブ記』と現代	須藤信雄	
	1975.05.25	エレミアの問の性格に関する一試論—「何故疑問」を中心に—	小田島太郎	
	1975.05.25	園部不二夫教授略歴・業績目録(抄)	編集委員会	
9	1976.03.30	キリスト教本質論に関する一考察(続)	村上和男	第8号の続き
	1976.03.30	聖アンセルムスにおける罪の問題	小野忠信	
	1976.03.30	倫理的実存と宗教的実存(キルケゴールとドストエフスキの実存的思想をめぐって)	吉沢慶一	
10	1977.03.30	発刊の祝い	金井信一郎	創立十周年記念号
	1977.03.30	聖アンセルムスにおける恩寵の問題(Ⅰ)—願望集とCur Deus Homo—	小野忠信	
	1977.03.30	社会的福音の神学の一考察—ラウシェンブッシュの場合—	村上和男	
	1977.03.30	エレサレム教団に対する歴史的考察	伊佐正敏	
	1977.03.30	第三の可能性	吉田泰	
	1977.03.30	マルセルにおける希望	千葉茂美	
	1977.03.30	「北よりの敵」とエルサレム—エレミア書第五章の編集史的考察—	小田島太郎	
	1977.03.30	エルサレムへの道—DystopiaよりChristian Utopiaへ—	須藤信雄	
11	1978.09.30	聖アンセルムスにおける恩寵の問題(Ⅱ)—Cur Deus Homoの必然性論議	小野忠信	第10号の続き
	1978.09.30	モーセの神—ヤウエ—神学史的管見—	吉田泰	
	1978.09.30	共観福音書におけるヨハネ先駆者性の位置づけ	陶山義雄	
	1978.09.30	新約聖書における死の理解	秋元徹	
	1978.09.30	揺るモーセ物語の形態分析	定形日佐雄	
	1979.05.25	聖アンセルムスの自由意志論(一)—原罪と恩寵—	小野忠信	
	1979.05.25	十七世紀におけるカルヴァン主義予定論の挫折	小林泰雄	
	1979.05.25	「ヨブ記」の表現の世界	吉田泰	
	1979.05.25	自己実現と新約聖書	ドナルド・クレグ・ドラモンド	
13	1980.03.19	明治後期キリスト教の社会的性格—二十世紀大学伝道を中心として—	工藤英一	1980年4月発行扱い
	1980.03.19	聖アンセルムスの自由意志論(二)—原罪と恩寵—	小野忠信	第12号の続き
	1980.03.19	翻訳 「旧約預言の宗教史的研究」(Ⅰ)	吉田泰	
	1980.03.19	解説「ヨブ記」	吉田泰	
	1980.03.19	ジャン・カルヴァンの聖霊観	森井真	
14	1981.03.19	イエスの自己理解の問題—救済者意識—	村上和男	1981年4月発行扱い
	1981.03.19	預言と救済—アモス—	吉田泰	
	1981.03.19	ステパノと原始キリスト教の展開—使徒行伝六・一・八・三—	加山久夫	
	1981.03.19	中世前期の救済思想	小野忠信	
15	1982.03.01	聖アンセルムスの自由意志論(三)	小野忠信	第13号の続き
	1982.03.01	アンテオキア教会と原始キリスト教の展開	加山久夫	
	1982.03.01	Theological Comments on the Colossian Hymn (Col. 1: 15-20)	Donald C. Drummond	
	1982.03.01	ジャン・カルヴァンの聖霊観—その発展のあとをたどって—(Ⅱ)	森井真	第13号の続き
16	1983.03.23	モノロギオンにおけるsola ratione	小野忠信	
	1983.03.23	聖ニコラスの原像とその伝承—『黄金伝説』をめぐって—	松本富士男	
	1983.03.23	ステパノ説教における救済史の問題	加山久夫	
17	1984	大学教育とキリスト教—その問題の系譜と課題—	松川成夫	出版分在庫なし
	1984	キリスト教主義大学の教育的使命—日本の近代化の歩みと人格形成の課題—	小野忠信	
	1984	キリスト教と教育	村上和男	
	1984	創世記における人間理解—基督教概説の教材として—	吉田泰	
	1984	大学と聖書 ゲルハルト・エーベリング著	加山久夫	
	1984	イスラムとダンテ	花田宇秋	
18	1985.03.23	新しい船出	森井真	
	1985.03.23	キリスト教と他宗教	八木誠一	
	1985.03.23	思想史における近代化の問題—内村鑑三をめぐって—	渡谷浩	

	1985.03.23	「伝道の書(コーヘレト)」総論 Das Buch Kohelet: Eine Einführung	吉田 泰	
	1985.03.23	ヒューリタン革命期急進的宗教運動における経済倫理の三類型—C.Hill, The World Turned Upside Down, 1972.	大西晴樹	
	1985.03.23	後期デューラーにおけるキリスト像の位置(上)	斎藤栄一	
19				発行なし
20				発行なし
21	1988.03.23	ボンヘッファーと日本—政治宗教としての天皇制ファシズム—	宮田光雄	
	1988.03.23	後期デューラーにおけるキリスト像の位置(下) Some Aspects of the Image of Christ in the late works of Albrecht Dürer	斎藤栄一	第18号の続き
	1988.03.23	キリスト教研究所二〇年の歩み	小野忠信	
	1988.03.23	故工藤栄一所長とキリスト教研究所五ヶ年計画	橋本茂	
22	1989.06.19	現代の個人主義—思想史の脈絡における人権—	渡谷浩	
	1989.06.19	フロマートカノの歴史の神学	島山保男	
	1989.06.19	アジア人出稼ぎ労働者問題—合法化論の現実性をめぐって—	長谷川真知子	
	1989.06.19	人権の国際的保障と在日韓国・朝鮮人の人権—「キリスト教と人権」を考える一つの視点として	桂川潤	
	1989.06.19	レッシングの「ヘルムフート派について思う」—若きレッシングとキリスト教—	橋本茂	
	1989.06.19	The Place of Christianity in a Sino-Japanese Unity Sect: The Sanctuary of the Tao	Richard Fox Young	
	1989.06.19	一九八八年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
23	1990.10.29	人権の神学的基礎としての「神の似姿」—人権の神学序論—	島山保男	
	1990.10.29	民族的少数者の人権—在日韓国・朝鮮人の人権保障を考える視点から	桂川潤	
	1990.10.29	「隠された世界の女性達」—序—	長谷川真知子	
	1990.10.29	The Canon—Problems and Benefits	Charles E. Carlston	
	1990.10.29	The Doxa of Moses and Jesus (2 Cor. 3:7-18 and Luke 9: 28-32) To professor James M. Robinson on his sixty-fifth birthday	Hisao Kayama	
	1990.10.29	The Transplantation of Religion in Comparative Sociological Perspective	Mark R. Mullins	
	1990.10.29	一九八九年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
24	1991.07.20	身体をめぐるホリテイクス—十九世紀から二十世紀初頭における日本の精神医療システム	高橋涼子	
	1991.07.20	日本における臨床牧会訓練の検証—在日韓国・朝鮮人の人権保障を考える視点から—	菊池礼子	
	1991.07.20	アウグスティヌス De Dialecticaの著者問題をめぐって—研究史と若干の考察—	水落健治	
	1991.07.20	一九九〇年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
25				発行なし
26	1993.11.30	キリスト教的人権理解の展開—人権の神学序説二—	島山保男	
	1993.11.30	非学術的「聖書研究」のための会話の公準	成瀬武史	
	1993.11.30	15・16世紀ドイツ・キリスト教美術にみるセクシュアリティの問題	斎藤栄一	
	1993.11.30	Some Recent Patristic Studies carried out in Japan mainly since 1987	KUYAMA, Michihiko	
	1993.11.30	最近の古代キリスト教思想研究 邦語文献表—一九八七以降を中心に—	久山道彦	
	1993.11.30	初期シュライエルマッハーにおける「愛」の概念	川島堅二	
	1993.11.30	「キリスト教主義研究」—学校におけるキリスト教教育—	長村亮介	
	1993.11.30	被抑圧者のための臨床牧会訓練の可能性を求めて	菊池礼子	
	1993.11.30	一九九一—一九九二年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
27	1994.10.25	ルカのファリサイ人像	加山久夫	
	1994.10.25	二世界論からキリスト教形而上学へ—ユスティヌス「トリュファンとの対話」序文の思索	柴田有	
	1994.10.25	キリスト教的ヒューマニズムの可能性—リヒャルト・ヴィルヘルムの中国伝道の事例に即して—	川島堅二	
	1994.10.25	学術講演 北アイルランド問題	K. D. ブラウン	
	1994.10.25	1993年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
28	1995.11.10	魂の分有—『国家』篇の哲学と政治—	柴田有	
	1995.11.10	HARMONIA AND THE BODY —The Harmonia Theory in Aristotle's De Anima I 4 and the Ancient Medical Psychology—	Masahiro IMAI	
	1995.11.10	ブレイクと聖書	新倉俊一	
	1995.11.10	賀川豊彦「聖書社会学の研究」について	加山久夫	
	1995.11.10	賀川豊彦の労働運動観—「労働者崇拜論」を中心に—	RALF Silke	
	1995.11.10	「キリスト教主義研究 II」—学校におけるキリスト教教育—	長村亮介	第26号の続き
	1995.11.10	1994年度 活動報告		
29	1996.11.30	食卓の共同体としての教会—ルカ文書における普遍主義の象徴としての食事—	加山久夫	
	1996.11.30	デューラーの版画にみる聖母子像の変遷	斎藤栄一	
	1996.11.30	賀川豊彦のキリスト教社会主義(その一)—新川での実践をめぐる諸問題—	島山保男	
	1996.11.30	新たなキリスト教の試み—ルソーとシモヌ・ヴェイユ—	グリエルモ・フォルニ	
	1996.11.30	HARMONIA AND THE BODY —An Additional Comment—	Masahiro IMAI	第28号の続き
	1996.11.30	キリスト教研究所30年を振り返って	斎藤栄一	
	1996.11.30	1995年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
30	1998.02.28	キリスト教に基づく人格教育とは何か	吉岡良昌	
	1998.02.28	ジョン・ポールとジェームズ・アッシュヤーの契約神学—ウェストミンスター信仰基準との関連で(1)—	三川栄二	
	1998.02.28	ヘボンと中国伝道(上)	佐々木晃	
	1998.02.28	労働組合運動から見た賀川豊彦の「神の国」論	RALF Silke	
	1998.02.28	三浦三郎とセツメント運動—明治学院が生み出したもの—	太田孝子	
	1998.02.28	マルシリオ・フィッチーノ「プラトン神学への誘い」(1)	水落健治(訳)	
	1998.02.28	カルヴァンとフマニタス	森井真	
	1998.02.28	キリスト教研究所30年の歩み	加山久夫	
	1998.02.28	1996年度 活動報告		
31	1999.01.25	Friedensarbeit als ökumenische Aufgabe und zugleich Idehtitätsfindung in der Mission japanischer Kirche	HATAKEYAMA Yasuo	
	1999.01.25	エーミル・ブルンナーにおける人格理解と人間論—キリスト教主義教育の「人格」主義への一つの手がかりとして—	三川栄二	
	1999.01.25	ヘボンと中国伝道(下)	佐々木晃	第30号の続き
	1999.01.25	「ハルモニオ」と実体—初期アウグスティヌスにおける「魂」論の思想的典拠—	今井正浩	
	1999.01.25	マルシリオ・フィッチーノ「プラトン神学への誘い」(2)	水落健治(訳)	
	1999.01.25	近代の人間観—ブレイクとユンガー—	新倉俊一	
	1999.01.25	レフ・トルストイの「戦争と平和」に於ける平和	ビエール・チューザレ・ポリ	
	1999.01.25	The Jews and the Russian Orthodox Church in Perestroika Times	Evgeny Steiner	
	1999.01.25	書評 望月洋子『海と丘の原風景』	中山弘正	
	1999.01.25	1997年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	ここまで1日目の作業
32	2000.03.31	イデアと天文学—「国家」から「ティマイオス」へ—	柴田有	ここから2日目の作業
	2000.03.31	「人間の「人格」性の根源としての神」—ブルンナー「教養論」における人間論—	三川栄二	
	2000.03.31	W. インヴァーと米国長老教会の日本伝道—W. Imbrie and Historical Sketch of the Mission of the Presbyterian Church in the	中島耕二	
	2000.03.31	賀川豊彦における松沢幼稚園の設立と自然中心の教育—郊外型幼稚園の系譜において—	福元真由美	
	2000.03.31	1998年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
33	2001.01.	現代的風土の詩人—スティーヴンズとニーチェ—	新倉俊一	在庫なし
	2001.01.	福音と問いかける心の対話—神谷美恵子に学ぶ—	成瀬武史	
	2001.01.	新宗教とキリスト教	島園進	
	2001.01.	近代日本におけるキリスト教聖霊派の系譜—ホーリネス・ペンテコステ・カリスマ運動—	池上良正	
	2001.01.	『神の対象性』における人間の神認識—カール・バルトにおける神学的思惟構造について—	三川栄二	
	2001.01.	明治学院とキリスト教教育	播本秀史	
	2001.01.	キリスト教人格教育の基礎—人格知識論と創発的解釈学—	稲垣久和	
	2001.01.	「もう一歩のヘボンの手紙」	佐々木晃	
	2001.01.	Breaking the Alibi of Dialectic: Luke's Placement of Paul's Dialectic in his Acts of the Apostles	Akitsugu TAKI	
	2001.01.	今関恒夫・大西晴樹他著『近代ヨーロッパの探求3 教会』(2000年5月)	中山弘正	
34	2001.12.20	Leading-Out and Religious Spurt in Literature—the drive for cathartic empathy	NARUSE Takeshi	
	2001.12.20	社会改良主義と田川大吉郎	遠藤興一	
	2001.12.20	American Missionaries and the Writing of Meiji Christian History	A. Hamish Ion	
	2001.12.20	宣教師辞任後のクリストファー・カロザース	中島耕二	
	2001.12.20	グリフィスを通して見るフルベッキ1830~1859	佐々木晃	
	2001.12.20	Whose "fingerprint" is it? Solitarium in the Acts of the Apostles?	Akitsugu Taki	
	2001.12.20	高崎能樹の生い立ちと仕事—明治学院の生んだ幼児教育者—	福元真由美	
	2001.12.20	権名麟三における回心の瞬間—(復活のイエス)との出会い—	小林孝吉	
	2001.12.20	書評 ジェームズ・フーストン著 松本唯訳『心の渴望 本当の幸福を求めて』	中山弘正	
	2001.12.20	2000年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
35	2003.12.	キリスト教研究所35年の歩み	加山久夫	出版分在庫なし
	2003.12.	信仰における経験の先どりとは本による類比的推論	成瀬武史	
	2003.12.	ドイツ中世後期・宗教改革時代における旧約聖書	吉田 泰	
	2003.12.	The Style in Connecting and Disconnecting Clauses in the Gospel according to Mark	Akitugu Taki	
	2003.12.	エウゼビオスの『教会史』における宗教的環境とその特徴	石本東生	
	2003.12.	公共哲学と宗教の複雑さ—公と私の(間)の哲学—	稲垣久和	
	2003.12.	宣教師デビッド・タムソンの生涯—誕生から日本基督—致教会の創立までを中心として—	中島耕二	
	2003.12.	長崎のフルベッキ(1859~1869)	佐々木晃	
	2003.12.	ヘボンと中国伝道—その宗教思想的考察—	守屋友江	

	2003.12.	田川大吉郎と社会福祉	遠藤興一	
	2003.12.	賀川豊彦の理念と社会的活動	野村誠	
	2003.12.	キリスト教文学の誕生—権名麟三『美しい女』—	小林孝吉	
	2003.12.	権名麟三をめぐる日本の戦後	丸山義王	
	2003.12.	The Legacy of War in the Early Literature of Shina Rinzo	Mark Williams	
36	2004.01.20	ソクラテスにアイロニーをみることの歴史と解釈上の意義	瀧澤次	
	2004.01.20	西ヨーロッパ初期キリスト教美術における旧約聖書	吉田泰	
	2004.01.20	ヨセフとエウゼビオスの環境観・歴史観の相違—『ユダヤ戦記』と『教会史』における一比較研究—	石本東生	
	2004.01.20	Recent Trends In the Study of Gnosticism	Harold W. Attridge	
	2004.01.20	近代中国における初期連合大学運動—1877年からエディンバラ世界宣教会議まで—	渡辺祐子	
	2004.01.20	マカオ時代のAmerican Presbyterian Mission Press—美華書館前史 その一—	宮坂弥代生	
	2004.01.20	In Search of Souls and Minds: A Comparative Re-Appraisal of the Beginnings of Protestant Mission Work in Tsukiji and Tok	A. Hamish Ion	
	2004.01.20	ヘボン博士の記念碑をめぐる—ヘボン塾創設140周年記念—	丸山義王	
	2004.01.20	「お雇い教師」宣教師フルベッキ 1869～1878	佐々木亮	
	2004.01.20	英文書簡からみた田川大吉郎—教育者としての軌跡—	遠藤興一	
	2004.01.20	日常性における形而上的表現について—クジシフト・ケシロフスキ『デカログ』を中心に—	杉山恵子	
	2004.01.20	罪と自由—権名麟三『運河』—	小林孝吉	
	2004.01.20	ヘンデルのオラトリオ《メサイア》における受難場面のテキストと音楽	藤原一弘	
	2004.01.20	個人の視点と自分の視野の中の自分	成瀬武史	
	2004.01.20	書評 小畑進著『創世紀 講録』	中山弘正	
	2004.01.20	2002年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
37	2005.03.10	聖書の改訂に何を求めるか？—『聖書 新改訂 引照・注付』(2003)に思う—	成瀬武史	
	2005.03.10	政党政治家 田川大吉郎	遠藤興一	
	2005.03.10	戦時下の賀川豊彦—「みくに」運動による賀川批判を中心として—	加山久夫	
	2005.03.10	清末民初における公教育とキリスト教学校—国民形成とキリスト教教育—	渡辺祐子	
	2005.03.10	権名麟三寄贈アルバムからみた「あさって会」の変遷		
	2005.03.10	死と終末のなかで—権名麟三『断崖の上で』『長い谷間』—	小林孝吉	
	2005.03.10	Shizuoka Christians and Tokyo Evangelism in the early 1870s	A. Hamish Ion	
	2005.03.10	明治学院の戦争責任・戦後責任	小暮修也	
	2005.03.10	新撰組出身の伝道者・結城無二への検証	石川潔	
	2005.03.10	書評 ジョン・ドゥルモウ著『黎明を待ちわびる—明日のためのキリスト教』について	森井眞	
	2005.03.10	書評 小畑進著『ヨブ記講録』	中山弘正	
	2005.03.10	2003年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
38	2006.02.	軍縮論者としての田川大吉郎	遠藤興一	出版分在庫なし
	2006.02.	Realistic Pacifist 賀川豊彦と中国	米沢和一郎	
	2006.02.	エルサレム世界宣教会議における宣教と教育	小川智瑞恵	
	2006.02.	ジュリア・ドッジ・カロザース—女性のための女性の仕事—	中嶋耕二	
	2006.02.	自由論—権名麟三『蠍を飼う女』『天国への遠征』	小林孝吉	
	2006.02.	大家族を抱えて—フルベッキの晩年 1879～1893	佐々木亮	
	2006.02.	Imperialism, Missionaries and Christianity: Aspects of the British, American and Japanese Christian Experiences in the late 19	A. Hamish Ion	
	2006.02.	ドクトル・ヘボン神奈川宿での1169日	石川潔	
	2006.02.	現代キリシア語に見るコイネーキリシア語の歴史言語的影響と共通性	石本東生	
	2006.02.	権名麟三における「第三の場所」—同時性をめぐって—	丸山義王	
	2006.02.	聖書翻訳の視座	成瀬武史	
39	2006.12.20	アウグスティヌス、自由学芸の書『問答法について』について	バルトウィン・フィッシャー	
	2006.12.20	宗教団体法と田川大吉郎	遠藤興一	
	2006.12.20	Strong Nationalist 賀川豊彦の主張	米沢和一郎	
	2006.12.20	タンバラム世界宣教会議における宣教と教育	小川智瑞恵	
	2006.12.20	横浜居留地39番でのヘボン	石川潔	
	2006.12.20	権名麟三における信仰、文学、表現	丸山義王	
	2006.12.20	Verbeck, Overseas Students and Early Meiji Protestantism	A. Hamish Ion	
	2006.12.20	2005年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
40	2007.12.10	C. S. ルイスの『キリスト教の精髓』による解放	成瀬武史	
	2007.12.10	Orientalism and Occidentalism and American Missionaries and Japanese Christians in Bakumatsu and Early Meiji Japan: Sor	A. Hamish Ion	
	2007.12.10	『よるこぼしきおとづれ』—地理教育からみた明治初期のキリスト教児童雑誌—	齋藤元子	
	2007.12.10	聖書と訳事業で活躍する「医師・ヘボン」	石川潔	
	2007.12.10	島崎藤村とキリスト教	丸山義王	
	2007.12.10	軍国主義とどう向き合うか—田川大吉郎の軌跡—	遠藤興一	
	2007.12.10	賀川豊彦の戦後	米沢和一郎	
	2007.12.10	United Presbyterian Church of Scotland 宣教委員会議事録インデックス	吉馴明子	
	2007.12.10	キリスト教保育の現場からの要望と養成校の課題	東義也	
	2007.12.10	書評 小畑進著『詩篇講録』	中山弘正	
	2007.12.10	2006年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
41	2008.12.17	福音の母体としての自然	成瀬武史	
	2008.12.17	Understanding of Orthodoxy and Heresy in Korean Church History	徐正敏	
	2008.12.17	Children's Work for Children—米国長老教会女性海外伝道協会発行子ども向け機関誌—	齋藤元子	
	2008.12.17	聖書における家庭教育と子どもの遊びについて—聖書解釈の試み—	東義也	
	2008.12.17	Friends, Foes and Other Foreigners: A Re-Appraisal of the Relations between American Missionaries and the Western Com	A. Hamish Ion	
	2008.12.17	日本基督一致教会初代牧師・戸田忠厚	中嶋耕二	
	2008.12.17	内村鑑三の文学観—近代日本文士たちの憧憬と絶望—	田中浩司	
	2008.12.17	賀川豊彦の戦後Ⅱ	米沢和一郎	第40号の続き
	2008.12.17	研究ノート 年譜からみたキリスト教社会福祉	遠藤興一	
	2008.12.17	書評 小畑進著『ビレモンへの手紙講録』	中山弘正	
	2008.12.17	冤書 “Bluff” (山手居留地)のヘボン先生	石川潔	
	2008.12.17	藤村から学んだ耕治人	村上文昭	
	2008.12.17	2007年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	
42	2009.12.14	日本語聖書における文章の品位	成瀬武史	
	2009.12.14	文化をとおしてみた社会福祉実践	遠藤興一	
	2009.12.14	アジアが遠くにあった頃—ヘボンのアメリカ—	司馬純詩	
	2009.12.14	岩下社—「新スコラ哲学」論文における霊と哲学	島田由紀	
	2009.12.14	公共哲学から見た賀川豊彦	稲垣久和	
	2009.12.14	1890年インブリー事件	中嶋耕二	
	2009.12.14	明治学院大学キリスト教研究所のあゆみ—建学の精神に根差した研究活動—	丸山義王	
	2009.12.14	大宅社—の賀川豊彦—資料解題と考証	米沢和一郎	
	2009.12.14	文学によるキリスト教主義教育の可能性—Flannery O'Connorの“A Good Man is Hard to Find”を用いて—		
	2009.12.14	書評 賀川豊彦著 加山久夫・石部公男訳『友愛の政治経済学』	中山弘正	
	2009.12.14	白金文学「前史」は、植村正久から藤村へ	村上文昭	
	2009.12.14	2008年度 活動報告		
43	2010.12.14	ロゴスに共鳴する美意識と選択の自由	成瀬武史	
	2010.12.14	岩下社—とその周辺(上)—昭和初期におけるカトリックとプロテスタント	遠藤興一	
	2010.12.14	成人崇敬および聖遺物崇敬—2010年聖アントニオの遺体公開に参加して—	手塚奈々子	
	2010.12.14	Concept of Truth in the Early Theology of Dietrich Bonhoeffer	Yuki Shimada	
	2010.12.14	若き植村正久の伝道路線	吉馴明子	
	2010.12.14	ノルマントン号事件とキリスト教—米国長老教会宣教師W・インブリーの対応を中心に—	中嶋耕二	
	2010.12.14	明治学院における学生の宗教活動	丸山義王	
	2010.12.14	松本幹著“Hymnology in Japan”『日本における讃美歌』(全訳)	手代木俊一	
	2010.12.14	16世紀末におけるキリシタン布教の実体—洗礼者教の検討を通して—	清水有子	
	2010.12.14	書評 松本清著『北アイルランドのプロテスタント』(2008年12月刊)		
44	2011.12.14	信楽を信念へと誘導するダイアログとフェアプレー	成瀬武史	
	2011.12.14	岩下社—とその周辺(下)—昭和初期におけるカトリックとプロテスタント	遠藤興一	第43号の続き
	2011.12.14	大地の管理責任—ウェンデル・ベリーの思想より	今村正夫	
	2011.12.14	「キリスト教宣教と植民地主義」研究における被植民者の歴史的主体性について—台湾キリスト教史研究の方法論に関する	高井ヘラー由紀	
	2011.12.14	福音宣教と社会改良—1890年代の植村正久—	吉馴明子	
	2011.12.14	賀川豊彦と公共福祉—コープとコーポのダイナミズム—	稲垣久和	
	2011.12.14	Wirklichkeitに至る階段—Flannery O'Connor “The Geranium”に見る歴史を回避する人間—	田中浩司	
	2011.12.14	イースト・オレンジにおけるヘボン	渡辺英男	
	2011.12.14	チャペルアワーやサクルなど学生のキリスト教活動と明治学院教会のあゆみ	丸山義王	
	2011.12.14	書評 ジョン・M・L・ヤング著 川崎豊訳『宣教師が観た天皇制とキリスト教』(燦葉出版社、2005年7月)	中山弘正	
	2011.12.14	2010年度 活動報告	明治学院大学キリスト教研究所	

45	2012.12.14	福音と地続きの自然の道理	成瀬武史
	2012.12.14	天皇制とキリスト教社会福祉—その歴史からみえてくるもの—	遠藤興一
	2012.12.14	ウェンデル・ベリーの宗教概念—エドワード・O・ウィルソンの「融合」批判を通して	今村正夫
	2012.12.14	日本植民地統治期の台湾人YMCA運動史試論	高井へら—由紀
	2012.12.14	「日韓併合」に対する日本プロテスタント教界の見解	徐正敏
	2012.12.14	ヘボン家の人々	中島耕二
	2012.12.14	Seeding the Wheat among the Tares: James Ballagh and Protestant Beginnings in the Hakone, Mishima and Numazu Regions	Andrew H. Ion
	2012.12.14	『和英語林集成』の二つの初版—横浜版とロンドン版—	木村一
	2012.12.14	日本近代文学に描かれた明治学院(その1)—太田治子と明治学院と『私のハムレット』—	岩田ななつ
	2012.12.14	研究ノート ニューヨークにおけるヘボン	渡辺英男
	2012.12.14	研究ノート 松本幹小伝—日本人初の讃美歌学者・日米の架け橋を生きた男—	原豊
	2012.12.14	翻訳 永田謙著「日本の聖職者にとって、今後解決を必要とする教会音楽における諸問題」	手代木俊一
	2012.12.14	書評 日野原重明著『医師のミッション—非戦に生きる』(藤原書房、2012年1月)	中山弘正
46	2014.1.31	日本人にとって讃美歌とはなにか	遠藤興一
		華中伝道の祖 グリフィス・ジョン(1831-1912)試論	渡辺祐子
		沖繩と「本土」の関係性—キリスト教伝道からみえる「構造的差別」と「平和」の問題—	池尾靖志
		浦上—番崩れにおける長崎奉行所のキリスト教書類収取をめぐって—「耶穌教義書」との関係と浦上村民の自己意識—	清水有子
		「神聖」天皇の非宗教化と現代	吉馴明子
		中国の少数民族におけるキリスト教の受容に関する研究—雲南省禄勳県の苗族(ミャオ族)を中心に—	徐亦猛
		日本近代文学に描かれた明治学院(その2)—山崎俊夫と李光洙と「耶穌降誕祭前夜」—	岩田ななつ
		ウェンデル・ベリーの「大経済」としての「神の国」について	今村正夫
		書評 立花 隆『天皇と東大』(文藝春秋、2005年)	中山弘正
47	2015.1.31	丸山真男における宗教的実存のゆくえ(1)	遠藤興一
		浦上潜伏キリストの信仰—没収・伝来書物の検討を手掛かりにして—	清水有子
		植村正久の武士道論序説—1894年-1902年を対象に—	吉馴明子
		『宇宙の目的』再考(1)—賀川豊彦と自然神学—	稲垣久和
		賀川豊彦「死線を越えて」論—女主人公・田宮鶴子から見えてくるもの—	岩田ななつ
		モンドラゴンにおける「意識革命」—利己心を超えられるか—	清澤達夫
		To Build a New Japan: Canadian Missionaries in Occupied Japan 1946-1948	Andrew H. Ion
		戦いを越えて—宣教師 Andrew N. Nelson の生涯と働き—	中井純子
		志喜屋孝信のキリスト教—戦後復興と新沖縄建設運動との関連で—	一色哲
		「竹のカーテン」を越えて—日本キリスト教代表による中国間使節団(1957年)の背景と意義—	松谷輝介
		ゲオルク・フリッパ・テレルマンの(マタイ受難曲)(1730)における創意	加藤拓未
		研究ノート 日本における中国キリスト教研究について—日中戦争期を中心に—	渡辺祐子
		研究ノート 地域から安全保障を考える視点—自治体の「平和政策」に着目して—	池尾靖志
		研究ノート Understanding of the Prophetic in the Critical Thinking of Cornel West	島田由紀
		研究ノート 上海浦東新区における対外開放とプロテスタント教会堂の変化—上海市感恩堂のケースから—	村上志保
		資料紹介 オールマン神学校に学んだ人々	岡部一興
		書評 賀川豊彦著『小説キリスト』(ミルトス、2014年)	中山弘正
48	2016.2.25	自然と対話する	柴田有
		食へることは神学の課題となるか—食へることからの問いと身体の変容—	植木敏
		丸山真男における宗教的実存のゆくえ(2)	遠藤興一
		『宇宙の目的』再考(2)—賀川豊彦と「悪の起源」の問題—	稲垣久和
		岩井健作の宣教思想と霊性—教会と平和運動の形成—	大倉一郎
		聖書と訳とヘボン	岡部一興
		S.R.ブラウンと新資料の発見により知られる「馬可傳福音書」の和訳	中井純子
		17~18世紀のハンブルクにおける受難曲演奏スケジュールの形成	加藤拓未
		1945年前後の韓国キリスト教の受難—信仰と良心の圧制に対する抵抗、そして屈折と懺悔の問題—	徐正敏
		1920年代中国における反キリスト教運動とキリスト教の本色化運動	朱海燕
		長老教会宣教師ヘンリー・ボーンカークの生涯—日本での戦中戦後における活動を中心に—	辻直人
		日清戦争義戦論とその変容	吉馴明子
		東アジアにおけるラウレット(K.S.Latourette)のキリスト教史—日・韓・中三国の受容過程とその比較を中心に—	洪伊杓
		Alf Stone and Occupied Japan 1946-1948: Missionary Hopes and Christian Opportunities	Andrew H. Ion
		研究ノート 河井道と遣米使節団	豊川慎
		講演録 韓国の民主化運動と日韓キリスト教—TK生の記憶	池明観
		講演録 戦後北朝鮮のプロテスタントイズム—歴史と展望—	金興洙
49	2017.2.9	Hoping to return to the North: E.J.O. Fraser and Canadian Missionaries in Occupied Korea 1946-1948	Andrew Hamish Ion
		「非教」と「護教」のせめぎ合い—1922年の広東における「非キリスト教」運動—	朱 海燕
		戦後直後の台湾におけるYMCA運動—台北基督教青年会の設立(1945年)をめぐって—	高井へら—由紀
		平和の神学の課題としての戦争責任論—フィリピン宗宣撫班員と戦犯とされたキリスト者の手記に見る戦争非責考—	豊川 慎
		朝鮮伝道論をめぐる海老名弾正の「内地=日本」認識—柏木義貞・吉野作造との比較を中心に—	洪 伊杓
		クララ・リット・ヘボンと「ヘボン塾」	中島耕二
		日本救世軍山室家の女性たち 民子・富士・阿部光子(1924~1944年までを探る)	牧 律
		丸山真男における宗教的実存のゆくえ(3)	遠藤興一
		資料紹介 長谷部誠三宛書簡	岡部一興
		ある未完訳のフルベッキ書簡—1866年・長崎における村田・綾部への授洗記録	中島一仁
		ドイツ語オラトリオのレチタティーヴォ歌唱法	クヌート・シヨホ(訳 加藤拓未)
50	2018.1.26	Canadian Missionaries in Korea and Japan and the Korean War 1950-1951	Andrew Hamish Ion
		ユルゲン・モルトマンにおけるキリスト教的終末論	岡田 仁
		中国国民党と反キリスト教運動—1925年の孫文のキリスト教的葬式を手掛かりに—	朱 海燕
		五四運動と中国キリスト教界の「反日」言説	土肥 歩
		海老名弾正の「植民地民」理解—海老名弾正の『主人』と吉野作造・石川三四郎の『土民』の比較を中心に—	洪 伊杓
		上海聖三一堂の歴史の変遷—19世紀半ばから現代まで—	村上志保
		丸山真男における宗教的実存のゆくえ(4)	遠藤興一
		20世紀におけるJ.S.バハ「マルコ受難曲」BWV247の復元と補完の歴史	加藤拓未
		植村正久の「明治武士道」からの分離	吉馴明子
		長谷川誠三宛書簡(その2)	岡部一興
		東アジアの近現代史とキリスト教—アジア神学セミナー開講記念国際シンポジウム(2017.11.18)記録	
		開会講演: アジアキリスト教研究の主題—日中韓キリスト教の歴史とその展開過程の諸前提—	徐 正敏
		発表1: 中国の近現代史とキリスト教	陶 飛亜
		コメント	渡辺祐子
		発表2: 韓国の近現代史とキリスト教	張 圭植
		コメント	李 惠源
		発表3: 日本の近現代史とキリスト教	山口陽一
		コメント	李 省展
51	2019.1.30	American and Canadian missionaries and Japanese Studies in Pre-War Japan, 1858-1941	Andrew Hamish Ion
		「宇宙の目的」再考(3)—賀川豊彦の最終的ヴィジョン	稲垣久和
		ユルゲン・モルトマンの教会論	岡田 仁
		同志社英学校と熊本の思想形成	坂井悠佳
		各個教会史誌から見えてくる戦時台湾のキリスト教徒	高井へら—由紀
		「夜」と「兄弟なる太陽の賛歌」—エロワ・ルクレールによるナチスへの抵抗—	手塚奈々子
		対華二十一箇条要求と中国キリスト教界	土肥 歩
		社会福祉実践におけるスピリチュアリティの機能—「障害福祉ワーカーの語り」より—	深谷 美枝
		「満洲国」における宗教統制とキリスト教	渡辺 祐子
		丸山真男における宗教的実存のゆくえ(5)	遠藤興一
		北米日本人基督教学生同盟の研究	辻直人
52	2020.2.28	ユルゲン・モルトマンのキリスト論	岡田 仁
		日本組合基督教の思想的背景—新島襄の神学思想に関する一考察—	坂井悠佳
		明治学院留学生たちの2・8独立宣言と3・1独立運動	佐藤 飛文
		国学とキリスト教—松山高吉の場合—	嶋田彰司
		湯浅八郎と基督教教育同盟会—キリスト教教育をめぐって—	嶋田 彩人
		「風」と「水」—エロワ・ルクレールによる「夜」克服の道—	手塚奈々子
		社会福祉実践におけるスピリチュアリティの機能とは—特定宗教を持たない障害福祉ワーカーの語りを通して—	深谷 美枝
		現代の労働の意味を考える試論—「プロテスタント主義の倫理と資本主義の精神」の労働観をハ・ゴルトの「労働のメタモルフォーズ」を手掛かりに考察する	勝保 誠
		権名麟三と明治学院	丸山 義王
		書評 曾慶野著『形和地和の兄弟們』(復教反共、韓国基督教徒と台湾義勇隊の形成) [ヨセフとその兄弟たち: 台湾における義勇隊共産運動、韓国キリスト教徒、そしてファンダメンタリズムの形成]	高井へら—由紀
		講演録 Vom Stilo Recitativo—どのようにしてレチタティーヴォを演奏するか?	クヌート・シヨホ 加藤拓未(訳)
53	2021.3.31	ユルゲン・モルトマンの創造論—「天と地」をめぐって	岡田 仁
		明治前期における合同運動の一考察—日本基督公会運動から日本基督一致教会、組合教会との合同運動—	岡部 一興

		丸山傳太郎の中国伝道をめぐってー清末・民国初期ー 金鴻亮の愛国啓蒙運動と安岳事件 香港のキリスト教の社会参与に関する研究 1841年から2019年まで 戦時下における湯浅八郎のアメリカ滞在の実態 D. シェートリヒの『寄進による音楽』(1681)ー収載曲(ドイツ語によるマニフィカト)の分析ー 「思想化して生きるー青年は「知的障害者」として生きることを何故選んだのかー 市民社会と教会の伝統ー中国の教会の喫緊の課題 Howard Outerbridge: A Canadian Educational Missionary in Occupied Japan 1947-1951 現代社会の「経済」の意味を考える試論ノートー「スモールイズビューティフル」と「小さき兄弟会」2008年資料を手掛かりとして	金丸 裕一 佐藤 飛文 陳 智衡/渡辺 祐子(訳) 辻 直人 近松 博郎 深谷 美枝 王 文明 ANDREW HAMISH ION 勝俣 誠
54	2022.2.18	聖霊と微生物 人を生かす目に見えない二つのちから ユルゲン・モルトマンの社会的三位一体論ーエキュメニカル運動との関わりをめぐってー 1900年前後明治学院普通学部教育事情の一考察ー一訓令12号ショックを超えて 「社会小説」としての貫川豊彦『死線を越えて』ー「社会の発見」後の読者たちの期待と熱狂を読み解くー 戦後キリスト教教育と湯浅八郎 プロテスタントの初期聖書漢訳事業と中国語ネイティブ協力者 スピリチュアリティを志向したソーシャルワーク実践とはーモデルとしての「ホッとスペース」についてー カルヴァンの神学における信仰の確信と実践的三段論法 British Chaplains And Diplomats in Japan: Two Case Studies: Michael Buckworth Bailey and Lionel Berners Cholmondeley 村田四郎研究ー神学部をめざした前半生ー 現代世界の「経済」を考えるー貫川豊彦『友愛の政治経済学』(邦訳1936年)再読試論ノート 韓国民衆神学の歴史と現在	植木 献 岡田 仁 岡村 淑美 田中 祐介 辻 直人 黄 イエレム 深谷 美枝 八木 隆之 Andrew Hamish Ion 岡部 一興 勝俣 誠 崔亨默/李 相勤(訳)
55	2023.2.18	ユルゲン・モルトマンのデアコニー神学ー神の国の視座をめぐってー キリスト教と現代経済学についての試論ノートー経済学者フランソワ・ペルーの「パンと福音」1969年 フェミニスト神学とキア神学におけるマリア論 「ドイツ的キリスト者」運動と近代宗教史ーナチズム期ドイツ・プロテスタント系史叙述再考のための一試論ー アヘン戦争期広東知識人のキリスト教認識ー梁廷相「耶穌教難入中国説」への考察を中心にー 大正改訂「新約聖書」とその翻訳過程 Legges Apart: Evaluating Accounts of MissionaryーSinologist James Legge in the Two Modern Biographies 現代中国プロテスタント教会をめぐるグローバル化の影響ー海帰キリスト教徒の事例を中心に 明治20年代後半クリスチャン青年の天皇観ー階級意識との関連からー Fathoming Japanese Culture, History and Religion: Three Meiji Period British Missionaries, Henry Faulds, Walter Denning and Arthur Lloyd 村田四郎研究(2) 朝鮮開化派たちの日本留学と東京一教英和学校 【書評】By Kim-Kwong Chan. UNDERSTANDING WORLD CHRISTIANITY: CHINA 【講演録】バツバに燃え尽き度境群はあったかーバツバの晩年に関する新たな発見 Lit: Bach an Burr/Out?ー Neue Dokumente zu Bachs späten Jahren als Thomaskantor	岡田 仁 勝俣 誠 工藤 万里江 久保田 浩 朱 海燕 鈴木 進 黄 イエレム 村上 志保 吉岡 祐 Andrew Hamish Ion 岡部 一興 佐藤 飛文 松谷 謙介 ミハエル・マウル/横口 隆一(訳)
56	2024.2.20	ユルゲン・モルトマンにおける聖霊の神学ー「いのち」の理解をめぐってー 「罪」をめぐるキア神学の格闘 東京発「1973年韓国キリスト者宣言」の経緯と内容ー池明観、呉在植、金容福の活動を中心にー 森有正における「透明化」の意味と思想的位置付け 山室民子と武甫の生と信仰継承 村田四郎研究(3) キリスト教と協同組合ーアルベルト・イアーネスAlberto Ianes「イタリアの協同組合」Le Cooperativeを手掛かりに 平和と人間の尊厳を求め続けた森井眞先生	岡田 仁 工藤 万里江 徐正敏 辻 直人 牧 律 岡部 一興 勝俣 誠 小暮 修也
57	2025.2.17	水俣病事件とキリスト教 マッテンセンによるキルケゴール批判 日本聖書協会「口語訳「新約聖書」(1954)」を読み直す 「ユダヤ人だけが救われる」: 高校教科書が教える誤った通念を誰が訂正するのか 森有正「内的促し」論 コミュニタリアニズムにおける「政治」と「宗教」ーリベラルとの論争を振り返るー 求華宣教師 E. J. アイテルの伝教「知」をたどる 遠藤周作が求める(戦後の聖母)ー「キリシタン」を創作する戦中派作家の意図ー 臨床の知と社会福祉実践 村田四郎研究(4) 杉崎泰一郎、『修道院の歴史ー聖アントニオスからイエズス会まで』、創元社、2015年、一清貧の自給自足生活の系譜を考える ジュール・ラニョー「神」についての講義」IーII	岡田 仁 鹿住 輝之 鈴木 進 高木 久夫 辻 直人 榎木 憲一郎 黄 イエレム 増田 齋 遠藤 興一 岡部 一興 勝俣 誠 山本 里子
58	2026.3.12	日記から読み解く井深権之助と植民地期の朝鮮ー105人事件、「改正私立学校規則」、独立運動との関係を中心にー 長谷川初音の女性運動とジェンダー観: 信仰に基づく「男女の協同」と役割固定からの脱却 水俣病事件とキリスト教的人間理解ーユルゲン・モルトマン神学の視点からー キルケゴールのグルントヴィ批判 日本におけるプリマス・フレズレンと戦時下弾圧 プロテスタント宣教師ティモシー・リチャードの伝教理解 ー近代における伝教知の一形態ー From a Fishing Port to Mission Hospital: A Case Study of Peggie C. Arthur (1891-1959), a Scottish Missionary Nurse to Taiwan Amenomori Nobushige, his Christian career and his relationship with missionaries 監獄教論 政治と宗教のあいだにあるもの 村田四郎研究(5) 幻の留学生「周福全」を探して 地球温暖化時代の井深思想ー白金正門前イチョウ街路樹からまちの風致を 考える 山下永幸の予備的考察ー満洲伝道会を牽引した人物像ー ジュール・ラニョー「神」についての講義」(IIIーIV)	李省 展 岩田 三枝子 岡田 仁 鹿住 輝之 川口 葉子 黄 イエレム 三野 和恵 ANDREW HAMISH ION 遠藤 興一 岡部 一興 岡村 淑美 勝俣 誠 金丸 裕一 山本 里子